

希望（のぞみ）

よりよく生きるための価値観を自己の中に形成する研究

—選んだ「言葉」は自分を写す鏡—

渕山真悟

1 問題の所在と研究の目的

書店には多くの名言・格言集が並び、大人が自己紹介をする際には、よく座右の銘や好きな言葉が用いられる。江戸時代中期の米沢藩主、上杉鷹山の格言「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」は、企業の再建に取り組む経営者が好んで使う言葉として有名である。

名言とは、「名高いことば。すぐれたことば。」¹⁾であり、格言とは「深い経験を踏まえ、簡潔に表現したいましめの言葉」²⁾である。ビジネスマン向けに書かれた本で、「人生の岐路に立たされたとき、決断を迫られたとき、大きな波に襲われたとき、心の支えとなる「人生の言葉」があれば、その辛さにも耐えることができるし、希望を持ち続けることができる。言葉の光は淡いものでしかないが、しかし、真っ暗な道を歩くときには貴重な光になる。行く先を照らしてくれる「希望」という名の明かりになるのである。」³⁾として、名言・格言がもつ力を紹介している。

今泉(2011)は、「たった一つの名言が人間の生き方を変える。これは決して大げさな表現ではなく、成功をつかむための考え方、職場や日常生活に役立つ考え方、人間関係を豊かにする考え方など、その一言一言が人生を強く生きる指針である「座右の銘」となる。」⁴⁾として、座右の銘と成り得る多くの名言・格言を本にまとめている。

では、これらの名言・格言の力を利用し、生き方の指針としているのは大人だけで、子どもには必要ないものであろうか。

学校現場において、教室には担任教師が好きな

名言・格言が教室内によく掲示してある。また本学校園では自伸会(児童会)が掲げる信条⁵⁾があり、自らがどうあるべきかを示している。子どもを取り巻く環境の中にも、名言・格言は多く存在しているのである。

しかし、アンケート調査(平成24年6月28日実施、5年生38名)によれば、「自分の支えになるもの」という設問に対して、名言・格言を含む「言葉」と回答した子どもは2名であった。

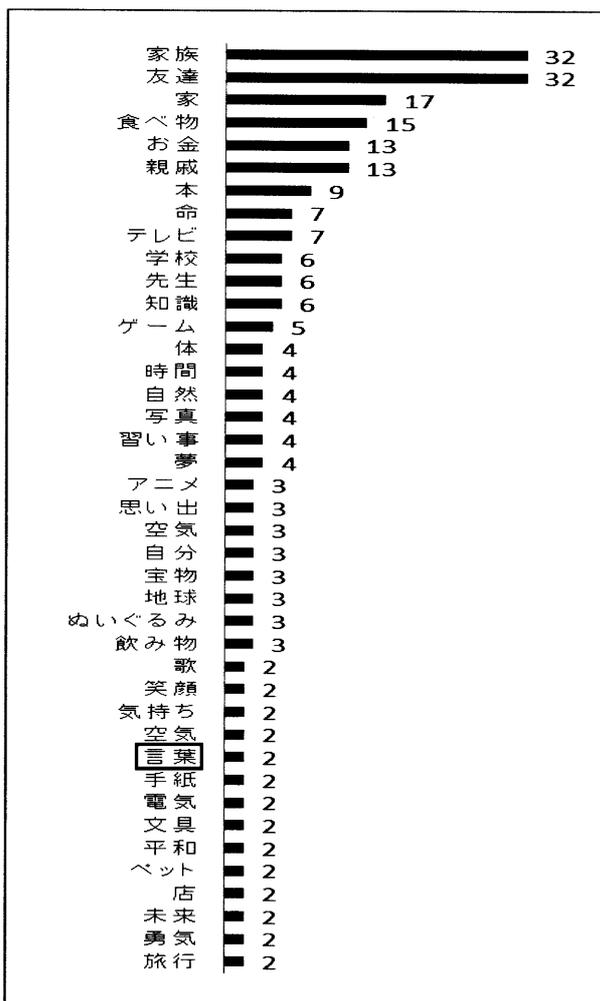


図1 「自分の支えとなるもの」(複数回答可)

図1より、大人の社会では、人を支え突き動かすものとして評価されている名言・格言は子どもたちには、それほど大きな影響を与えていない、もしくは、影響を与えていても、それは子どもの中で意識化されていないことが推察される。名言・格言に囲まれて生活をしていながら、言葉としっかりと向き合うことができていないのではないだろうか。

そこで、名言・格言がもつ言葉の力に、子どもたちが触れる機会を有効に設定することで、言葉は子どもたちの支えに成り得ると考えた。

本研究では「名言・格言のもつ言葉の力を、よりよく生きるための価値観育成に生かす」単元開発を行う。また実践は、本学校園が平成24年度より文部科学省の指定を受けて新領域として開発している「希望(のぞみ)」⁶⁾において実施する。この「希望」でつけたい価値観として、大きく三つ「共生」「自律」「参画」⁷⁾がある。

2 研究の仮説と研究の方法、具体的方策

研究を進めていく上で、次の仮説をたてた。

(1) 仮説

多くの名言・格言の中から、座右の銘にしたい言葉を選び、なぜその言葉を選んだのかを考え、語る活動を取り入れることは、一人ひとりの子どもが今大切にしたいと考えている価値観に気づかせ、育成していくために有効であろう。

また、この仮説を検証するために、本校第5学年38名に対して、平成24年9月から11月の間で単元開発を行うこととした。

(2) 指導にあたって

自分の心に響く言葉を「深イイ言葉」として、学習を進める。子どもがある言葉を「深イイ言葉」として選ぶからには、その言葉と選んだ子どもには何らかの関わりがある。その関わりが、自分がどうありたいかを探る鍵となる。

まず、多くの名言・格言を本やインターネットで調べたり、家族にインタビューをしたりして「深

イイ言葉」を集めさせる。その後、それらの言葉がなぜ自分の心に響いたのかを考え、それを語ることで自分自身を振り返ることができるようにする。最終的には、今の自分の心に一番響いた言葉が、「11歳の座右の銘」となる。子どもたちには、今後の自分の支えとなる座右の銘をもってもらうと同時に、子どもたちがこれから生きていく上で大切にしたいと思っている価値観に気づき、育むことができるようにする。

(3) 単元の目標

- 言葉と向き合うことで自己の現状をしっかりと把握し、これから自分がどうあるべきかを考えることができるようにする。
- 座右の銘をもつことで、自らの思考や感情を律して、今後進んで成長できるようにする。

(4) 学習計画(全5時間)

- 第1次 深イイ言葉!?!?.....1時間
- 第2次 深イイ言葉探し.....3時間
 - ・深イイ言葉を探そう (2時間)
 - ・深イイ言葉と向き合おう (1時間)
- 第3次 深イイ言葉披露.....1時間

(5) 仮説を検証するための具体的方策

①多くの名言・格言に出会わせる。(単元全体)

名言・格言を、子どもが本やインターネットで検索したり、家族へのインタビューで集めたり、教師が授業で紹介したりする。そのことにより多くの名言・格言に出会わせる。

②名言・格言を選ぶ段階を3回設ける。

(第2次)

・溢れた情報の中からの選択

多くの名言・格言を本やインターネットで探したり、家族へのインタビューを行ったりして集める。

・自分が集めた言葉からの精選

様々な方法で集めた名言・格言の中から、一番心に響く言葉を選ぶ。

・クラスの仲間と交流する中での精選

クラス全体で、一人ひとりが選んだ言葉を交流

し、一番心に響く言葉を選ぶ。

③多くある名言・格言がある中、なぜこの言葉を選んだのかを考えて、語る。(第2次)

子どもたちは、心に響く言葉という観点で、座右の銘を選ぶが、その言葉が心に響いたり、好きになったりする理由が、選んだからには必ずあるはずである。言葉を自分を写す鏡として、自分を見つめ、そこから見えてきた自分を語る場を設定する。

具体的な方策①②において、一人ひとりの子どもにあった言葉を選ばせ、自らを語る事ができる基盤を作り、具体的な方策③において、自分と向き合い、自分がこれからどう生きていくのかという価値観を育成する。

3 授業の実際

<第0次 耕し>

- ・国語の時間に行う漢字テストの余白部分に、偉人の名言や格言を載せる。(4月～)
- ・学級文庫の中に、名言や格言がまとめられた本を入れる。(4月～)
- ・あいだみつをの言葉が書かれた色紙を教室に掲示する。(4月～)
- ・教育実習生の自己紹介で、自分の座右の銘を話してもらう。(6月)

<第1次 深イ言葉!?!>

本単元を始めるにあたって、プロ野球選手やお笑いタレントの座右の銘と、その言葉に救われた教師のエピソードを紹介した。その後、子どもに「自分を元気づけたり、勇気づけたりする言葉」を紹介させた。

また名言・格言の良さは、時と場合によって異なり、人によって心に響く言葉は違うことを捉えさせるために、二つの言葉を紹介した。

・角があれば物のかかりてむづかしいや心よころまるまるとせよ
平 時頼

(心に角があれば、何事もうまく行かず 難しいことばかり。心はころころまるまると まあるくあってほしい。)

・をのづから角一つあれ人心あまり丸きはころびやすきに
隆覚禅師

(人の心には、角のひとつくらいあったほうが良い。あまりに丸いと転がってばかりで、信用できない。)

<第2次 深イ言葉探し>

・深イ言葉を探そう

本やインターネット、インタビューで、自分の心に響く言葉を集める時間を設定した。授業数は2時間だが、授業外でも言葉を探そうことができるように、授業の間隔を約1ヶ月あけて行った。

2時間目の最後に、自分の中での一番の深イ言葉を選んだ。集まった言葉は次ページに図4として掲載する。

・深イ言葉と向き合おう

前の時間に選んだ全員分の深イ言葉を、一枚のプリントにまとめて配付した。子どもたちはもう一度のその集まった言葉の中から、「11歳の座右の銘」とする言葉を一つ選んだ。その後、「11歳の座右の銘」が心に響いた理由について考え、語り合った。



図2 授業で語る様子

<第3次 深イ言葉披露>

いつも見ることができる場所に「11歳の座右の銘」を飾ることができるように、色紙に言葉を書いた。子どもたちは、授業後に「11歳の座右の銘」を書いた色紙を家のどこかに飾ることとなる。

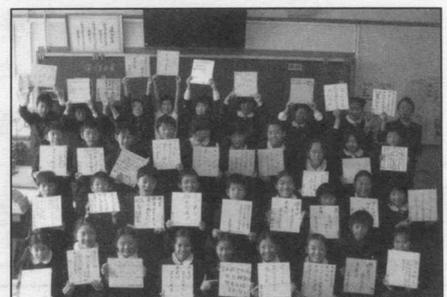


図3 「11歳の座右の銘」の色紙を持って

- 1) ひとつ言っておくけど、次にこんなことがあっても、もういちいち礼とか言わないからな。だから、もし今度逆にオレがお前を助けるようなことがあっても、お前もおれにありがとうとか言うなよ。友達が友達を助けるのは当然だろ。
- 2) 生きるのに1番役に立つのは若いときに手痛い失敗を経験しておくことである。
- 3) 花よりも花を咲かせる土になれ。
- 4) 人の夢は終わらねえ～。
- 5) 教室はゴミ箱じゃない。
- 6) 何もさかない寒い日は 下へ下へと根をのばせ やがて大きな花がさく。
- 7) 夢をもってチャレンジしていくことが大事だと思う。
- 8) 過去は変えられない、未来は変えられる。
- 9) 取るべきイスは必ずとる。
- 10) 幸運は向こうからやってくるものじゃない。自分で探して追いかけるものだ。
- 11) 人に勝つより。自分に勝て。
- 12) 1%の可能性があるかぎり。あきらめるな。
- 13) どんな理由があろうと、友達をきずつけるやつは許さねえ。
- 14) 夢はでっかく、根はふかく。
- 15) つらいのは頑張っているから、迷っているのは進もうとしているから。
- 16) 夢は目指した時から目標が変わる。
- 17) 運命は神の考えるものだ、人間は人間らしく働けばそれでけっこうだ。
- 18) 幸せは、いつも自分の心が決める。
- 19) 目はどうして前についていると思う？前向きに進んでいくためだよ。
- 20) やるだけのことをやって死ぬならいい。
- 21) 人は教えることによって、もっともよく学ぶ。
- 22) 「優しさ」「厳しさ」「明るさ」は人格の三大要素。「人に優しく」「自分に厳しく」「希望や展望を失わず」「寛容」に「謙虚に」「前向き」に。
- 23) 言われてからやった練習は、努力とは言わない。
- 24) 「ジャンケン」は確率ではない。勝ちたいと願う「心の力」だ。
- 25) 太陽が輝くかぎり、希望もまた輝く。
- 26) 夢はにげない。逃げるのは自分だ。
- 27) 全てが失われようとも、まだ未来がのこっている。
- 28) 他人の剣をふりかざそうとするやつにまいおりの翼はない。
- 29) 暴力と武器が人間の問題を解決することは決してない。
- 30) 夢を求めつづける勇気さえあれば、すべての夢は必ず実現できる。
- 31) 大将首はここにあり！勇んで参られよ！
- 32) まっすぐに生きたバカの魂はな、たとえその身がほろぼうが消えやしねー。
- 33) 成功への道は、自らの手で未来をつくることによるのみ開ける。
- 34) 何もやらなければ何も変わらない。むだな努力だっていい。結果が出なくたっていい。あきらめるな！やるだけやってあきらめてやる。
- 35) ある人たちにとっては幸福な事が、他の人たちにとっては不幸なのだ。

図4 一人ひとりが選んだ一番深い言葉

4 結果と考察

・具体的方策①について

① 多くの名言・格言に出会わせる。(単元全体)

第1次で、子どもに「自分を元気づけたり、勇気づけたりする言葉」を紹介させた際に、7名の子どもが9つの言葉を出した。

- ・攻撃こそ最大の防御なり
- ・天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず
- ・努力のたまもの
- ・ひとつの壁を乗り越えられるなら、2つのかべも乗り越えられる。
- ・今戦わなくていつ戦う。
- ・苦を乗り越えたあかつきには、幸がやって来る。
- ・今戦わないものに、次とか未来とか言う資格はない。(漢字テストに載せた偉人の格言)
- ・君の人生は長く、果てしなく広い。肩の力を抜いていこう。
- ・迷えば迷うほど世界はせまくなるし、もっとしんどいよ。

残りの32名は、これまで名言や格言に心を動かされたり、こだわって覚えたりという経験が少なかったようである。しかし、子どもたちは、第2次「①深イイ言葉をさがそう」の終わりの段階で一人平均18個の言葉を集めることができた。

また、第2次において、「11歳の座右の銘」が心に響いた理由について考え、語り合った後、自分の自分が好きな名言を複数あげさせた際には、図4の8)26)27)の三つの言葉を選び、自分はあきらめない人間になりたいのかもしれないと、自己分析をしている子どもの姿があった。多くの言葉を集める中で、自分の心に響く言葉の傾向が、わずかではあるが見え、自分を見つめるきっかけとなったと考える。

しかし、インターネットで名言・格言を探す際

に、言葉の内容よりも言葉以外の要因で言葉を集めていた。好きなアニメや有名人の言葉だからという理由で言葉を選ぶことから抜け出しにくい子どもは、今回の実践では、自分自身を振り返り語り合うときに、自分が大切にしたいと考える価値観をみつけにくかった。言葉自体の響きや意味を重視するのであれば、名言・格言を探す手法に再考の余地がある。

・具体的方策②について

② 多くの名言・格言を選ぶ段階を3回設ける。

(第二次)

選ぶ段階を経るごとに、選ばれる言葉の質は向上した。1回目の溢れた情報の中からの深イイ言葉を見つける段階では、授業者の主観にはなるが、名言・格言とは言いがたいものが多くあった。しかし、クラス全体で、一人ひとりが選んだ一番の言葉を交流し、一番心に響く言葉を選んだ3回目には、そのような言葉はほぼ皆無となった。

また、その3回目の言葉を選ぶ段階においても、選ぶ言葉を変更した子どもが19名いた。このことから、言葉を精選し、自分に合ったよりよい言葉を選ぶ上で、選ぶ段階を3回設けることは有効であったと考えられる。

しかし、3回目の言葉選びで19名の子どもが言葉を変更したという結果は、言葉への愛着を育むには、不十分であったともいえる。座右の銘とするからには、その言葉が口を衝いて出てくるほど、子どもと言葉のつながりを強くする必要があったと考える。言葉を選ばせるためには良い方策であったが、自らを語る事ができる基盤をつくるためには、もう少し時間をかけて言葉を選ぶ必要があったのかもしれない。

・具体的方策③について

③ 多くある名言・格言がある中、なぜこの言葉を選んだのかを考えて、語る。

(第二次)

言葉が指し示す生き方や価値観と、子どもが言

葉を通してもった目指す生き方や価値観にずれが生じることもあったが、子どもたちに合った多様な価値観を育むことができたと考える。子どもたちが、名言・格言を選んだ理由に迫ることと、日頃考えていたり、無意識にもっていたりする価値観に気づき・育成することは同義であった。

3)の言葉を選んだ子どもA

絶対に一番じゃないと悔しくて、泣きそうになるくらい主(花)になりたかった。でも、班長をやって上手くいかない時は、迷惑をかけたなと思う。①花になってきれいなことをするのもいいけど、土になってアイデアを出して、みんなで良い物を創っていくのもいいかなと思う。

↑

①部分より、「共生(他者の尊重)」の価値観に気づかせ、育成することができたと考える。

8)の言葉を選んだ子どもB

これまではゴロゴロしていた。1～4年生では、宿題をほとんどしていなかった。無駄な時間をすごした。これからは、②今どのような道を進もう(歩もう)としているのか、それが本当に無駄のないことなのか考えるときに、この言葉が支えになると思う。

↑

②部分より、「自律(自主・自律の重視)」の価値観に気づかせ、育成することができたと考える。

23)の言葉を選んだ子どもC

習い事で、練習をしている時に、先生に注意をされることが多いので、③自分で自分に注意することができるようになるためにこの言葉を選んだ。

↑

③部分より、「参画(自己の向上の重視)」の価値観に気づかせ、育成することができたと考える。

自らを語ることに抵抗を感じる子どもは、ワークシートにその思いを綴ったものの、仲間と語り合うまでには至らなかった。誰かに話したくて仕方がないと思わせ、仲間との交流が充実してこそ、子どもたちの中で価値観をより確かに育むことができると思う。友だちを支える言葉が、時として自己を支える言葉と成り得る。多様な価値観を個の中に芽生えさせることができる。いい言葉に出会っただけの自己満足に陥らないために、今後は交流の仕方を考えていく必要がある。

5 終わりに

実践を終えて1ヶ月後、子どもの中にこの実践の成果を見ることができた出来事があった。本校の自伸会(児童会)役員選挙において、書記に立候補した子どもを支える応援者が、「〇〇さんは『花よりも花を咲かせる土になれ』という言葉大切にしています。」と紹介した。言葉が示す生き方や振る舞いを理解し、その言葉売りにまでしている子どもの姿を見て、この実践をしてよかったと感じ、さらに研究を進めていこうと心に誓った。

<注および引用・参考文献>

- 1) 広辞苑 第2版, p.2164, 1955, 岩波書店.
- 2) 前掲書1)
- 3) ビジネス哲学研究会「心を強くする指導者の言葉」. pp.3-4, 2009, 株式会社PHP 研究所.
- 4) 今泉正顕:「座右の銘が見つかる本」. pp.3, 2011, 三笠書房.
- 5) 広島大学附属三原小学校自伸会信条には、大正13年に次の三つの言葉が制定されている。
一、私たちは、私たちの力で伸びていこう
一、私たちは、人のために尽くして感謝しよう
一、私たちは、私たちのきまりを尊重しよう
- 6) 広島大学附属三原学校園編「平成24年度第15回一貫教育研究会資料」. pp.15-32, 2012.
- 7) 前掲書5)